

アラスカで感じた初志貫徹という考え方

千歳高等学校国際教養科3年 西館 育実

「Fantastic!!」ホームステイ中何度も耳にしたこの言葉。私のホストマザーの口癖で何度も満面に笑みをたたえながら言っていた言葉が今も私の脳裏に焼き付いて離れない。正にダイヤモンド高校派遣事業は私にとって「Fantastic」な経験だった。

最初にダイヤモンド高校を訪問して胸を打ったことは女子生徒の身嗜みだ。自分の好きな服装・メイク・髪形を人目を憚ることなく楽しみ、自分を表現・主張していた姿は自信に満ち溢れていて私の中にあつた常識を瞬く間に覆した。周りの反応を気にし、人と比較して自分を押し殺す文化がある日本と比べ、自由で多文化が入り混じるアメリカの強さを身にしみて感じた。自分を受け入れ個性を解き放つ。そんな考え方にとても魅力を感じ、その環境がとても心地よく思えた。

今回の訪問で最も衝撃を受けたことがある。それは私が人種の壁を感じたことだ。今まで「人種の壁」なんてなく全ては自分の考え次第だ、と信じていた。しかし、今回留学生として現地の高校生と一緒に授業を受けたり休み時間を過ごし周囲を観察して気がついた。全ては自分の考え次第ではあるが、「人種の壁」は存在する、と。ダイヤモンド高校は多国籍であるがアジア系の学生はあまり見かけなかった。そこでアジア系の生徒を見かけたりすれ違っただけで、ホッと安心したのを感じた。どこか孤独で心の中にあつた違和感は「人種の壁」が自然とできていて自分と似た存在を探していたからだ気がついた。ただ楽しい思い出をつくるだけでなくこの事実を早くに学ぶことができた事が大きな収穫でもあった。やはり自分と似た存在を探してしまうことは人類の共通点であるが、全く容姿も文化も異なる人々と交流することは沢山の学びと自分の考えを構築する上で大切な機会にもなるということ学んだ。

もう一つ大きな収穫がある。それは外国では、とびぬけた「何か」がないと生きていけない、ということだ。特にアメリカは様々な人種の人で形成されている国のため、日本のように「外国人」として特別な目で見られることがない。海外で注目される人間になるには、人よりズバ抜けた「何か」と「コミュニケーション能力」が必要なのだと学んだ。私の夢は、愛で包み込む「幸せな大富豪」になることだ。お金をツールとして幸せで笑顔の輪が広がる世の中にしていくこと。その夢・目標を実現させるためにはかかせない課題を得ることができた。自分の強みだと知った、コミュニケーション能力を糧に、ズバ抜けた「何か」を習得していくことが2020年の私の任務だ。まずは何でも挑戦していく。

最後に改めてこのような貴重な機会を与えて下さった千歳市役所の皆様、ならびにライオンズクラブの皆さまに心から感謝致します。このご恩は生涯忘れることなく、次は必ず何かの形で千歳市のために還元します。



学校のカフェテリアで